

京都大学で日本文化を学ぶ、築かれていく絆

クー・カーリオン、シンガポール国立大学
August 1-12, 2016

今回の京都サマープログラムで、ASEAN 地域の大学から来た留学生たちとともに日本語・日本文化についての講義を受講し、そのおかげで日本文化の特徴についての意見や感想を交換することができました。日本語の講義では、京都に関するエッセイや小説、新聞記事など、様々なジャンルの文章の読解を通して、京都についての知識や理解を深めると同時に、日本語の読解能力を向上させることができました。人文学講義では、日本古典文学に見る日本人の美意識や学校教育に見る日本文化の諸相などのテーマが扱われ、これらの講義を受けることによって日本文化の魅力を再発見できました。また、京都大学大学院経済学研究科の岡田先生から自分の研究に関わる抜き刷りの論文や最新の著作を頂き、その上自分の研究テーマである「災害復興のガバナンス」について大変貴重な助言を頂いたので、研究に励む糧を得ることもできました。

他方で、京都府議場を見学し、京都府による府政マネジメントについての講義を受けました。また、様々な文化体験（書道講座、京野菜収穫と調理、かやぶきの里ツアー、餅つき等）をさせて頂いて、京都の伝統文化を十分に堪能しました。

そして何よりも、今回の京都サマープログラムを通して、京都大学の先生だけでなく、何人かの学生たちと交流することができ、本当にうれしく思っています。ASEAN 地域の大学生たちと日本の大学生たちが交流を重ねることは、日本におけるアジアの理解の促進につながると信じています。そのため、今回の短期留学で出会った先生方や学生たちとは末永くお付き合いしたいと思っています。これからも研究や勉強に打ち込み、いつか京都大学の先生方とお互いに切磋琢磨しあえるような存在になりたいと思っています。

私は今、日本での災害復興の過去や現状を検討し、復興のあり方を探る研究をしています。特に「災害復興のガバナンス」という研究テーマ（復興の主体は誰か、復興には誰がどのように関わり、どういった手順が必要か）に大変興味を持っております。また、2000年以降、日本の過疎地域では大規模災害が多発しており、過疎地域における復興のあり方を考える上で地域再生（住民の生活再建及び産業の再建・振興）という視点を考察しなければならないと思っており、勉強を進めています。今回のプログラムを通して、災害復興の専門の先生と出会い、日本の大学院に所属すれば、より良い研究ができるかもしれないと考えるようになりました。修士課程修了後に博士課程に進学したいと思っていますが、ぜひ日本の大学院への進学を検討したいと思っています。